

# おいしい 福島の米 全国に届けたい

農業再生の  
担い手



経済経営学類 教授

## 小山良太

KOYAMA Ryota

[専門分野] 農業経済学、協同組合論  
(6次産業化や農業協同組合を 絡めた地域づくりもテーマ)

【プロフィール】北海道大学大学院農学研究科博士課程修了。地産地消、6次産業化の研究を通して、地産地消ふくしまネットや街なかマルシェの実践を進める。震災後は、農業の放射能汚染問題に取り組み、農地の汚染マップの作成、水稻試験栽培、復興マルシェなど復興事業に関わる。

首都圏を中心とする県外の消費者は、震災直後は被災地を支援しようと、福島の農産物を積極的に購入してくれていましたが、2011年秋、暫定規制値(500Bq/kg)を超える米が検出されて以降、福島の米は店頭に並ぶこともほとんどなく、市場は他の産地にとって代わられてしまいました。2012年からは米の全量全袋検査を行い、2014年以降、基準値(100Bq/kg)超えはゼロであるにも関わらず、市場からはみ出したまま、震災直後の汚染されたイメージだけが定着してしまうことが産地にとっては一番の痛手です。

この現状を打開するには、どうして福島の米が安全なのか、その根拠を示す取り組みが必要です。ニュースでは、検査結果だけが取り上げられ、「なぜ放射性

物質が検出されないのか」という理由については報じられません。私は、①雨などの自然現象による減少②吸収抑制対策(カリウム散布)の効果③半減期による減少④安全性の高い土地での作付け、という4点を理由に挙げ、安全性を説明しています。そして、消費者に納得してもらった上で、福島の米を食べてもらいます。

福島の米は、全国のどこの米よりもおいしいし、農家の技術力も高いと自信を持って言えます。安全性の根拠があり、そしておいしければ、消費者は必ず福島の米を選んでくれると思います。地域の研究機関として、行政や生産者、農業団体などと連携し、福島の「食と農の再生」に取り組んでいきます。



### 研究概要

福島大学は原発事故後から、農地の放射能計測、各種試験栽培、食品検査体制のあり方、住民組織の支援、風評対策など幅広い活動をしてきました。試行錯誤で実施されてきた放射能対策ですが、これまでの緊急時対策を見直し、持続可能な放射能対策を構築することが不可欠です。そのためには地域の自然環境、営農環境、社会・経済的環境の多様性に即した対策作りが求められます。私どもは、これま

### 食料循環系の把握に基づいた持続可能な放射能汚染対策の確立



での支援研究の経験を生かし、総合的な放射能対策を提案させていただきます。

こんなことができます!

### 持続可能な放射能対策、風評被害対策の助言・支援

想定するパートナー

自治体、農業協同組合、生活協同組合、住民組織

具体的な連携、事業化のイメージ

既存の放射能対策の見直しと転換案・課題の提示

#### これまでの取組事例

- ・「放射性物質循環系の解明と食料生産の認証システムに関する研究」（福島大学重点研究分野「foRプロジェクト」）
- ・地産地消ネット福島
- ・JA福島中央会
- ・JA新ふくしま、JA伊達みらい、JAあぶくま石川
- ・街中マルシェ
- ・おかわり農園（福島大学経済経営学類小山ゼミ主催）

#### 関連情報

- ・濱田武士、小山良太、早尻正宏（著）『福島に農林漁業をとり戻す』（みすず書房）
- ・日本学術会議『原子力災害に伴う食と農の「風評」問題対策としての検査体制の体系化に関する緊急提言』

### 私たちの研究室自慢!

安全でおいしい福島の米を知ってもらうために、昨年「おかわり農園」での米作りに挑戦しています。多くの人に食べてもらい、福島の米の魅力、農家の人の思いを伝えていきたいです。



地域産業振興

食・農

人材育成

ライフサイエンス

環境